

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472600966
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホームさくら
訪問調査日	平成20年 9月16日
評価確定日	平成20年11月20日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 2 6 0 0 9 6 6		
法人名	医療法人 土生医院		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	豊後大野市三重町市場598番地1 (電話) 0974-22-3695		
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 9月16日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(平成20年 8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	6.4人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) ① 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ② 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(平成20年 8月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.9 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 土生医院(事業母体)
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 市の中心部に位置し、市役所、商店、銀行などの公共施設が近くにあり、利便性がよい。
- 2 併設の医療機関と隣接しているので、24時間の協力体制がとれている。
- 3 運営者は、職員の質の確保、向上に向けた育成に意欲的であり、事業所内外の研修を受ける機会を確保している。
- 4 利用者の尊厳、プライバシーの保護を理念として掲げている。全職員が穏やかな声かけを心がけ利用者に接しており、相互の信頼関係ができています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の外部評価受審後の取り組みが遅れており、未だ改善計画を立てたばかりの状態である。改善への早急な取り組みが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は、自分たちが行っているサービスを見直すよい機会としてとらえ、全職員で自己評価に取り組み、その中での気づきを改善計画に活かし、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は、定期的開催され、市の担当者や地域の保健師、家族代表、併設病院の看護師などの参加がある。事業所の現状や課題を報告し、福祉の情報や地域交流についての助言や意見などを、サービス向上に活かす取り組みをしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	日頃より家族と意見や要望を話しやすい関係ができており、面会時に気軽に相談が行えるようにしている。年2回の家族会には、家族だけで話し合う時間を設けるなど、意見や要望を引き出す工夫をしており、出された意見について全職員で話し合いを行い、運営やケアに活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内の保育園より2ヶ月に一度の訪問や、看護学生のボランティアを受け入れ、地域の祭や行事への参加をしている。職員も地域との交流を意識し、近隣や家族などへの声かけを積極的に行っており、協力的な家族が多い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを実践していくために、開設時の理念を全職員で見直しを行い、職員が大事にしていること、利用者が望んでいることなどを具体的に取上げ、独自の理念をつくり上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間のコミュニケーションがとれており、日常のケアの際、経験の浅い職員に対して、管理者より、理念に沿った対応やケアについての助言が行われている。		
2. 地域との支えあい					
<input type="checkbox"/>	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の保育園より2ヶ月に一度の訪問や、看護学生のボランティアを受け入れ、地域の祭や行事への参加をしている。職員も地域との交流を意識し、近隣や家族などへの声かけを積極的に行っており、協力的な家族が多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input type="checkbox"/>	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に評価の意義を説明し、全職員で自己評価に取り組んでいるが、前回の外部評価結果に対しての改善計画が立てられていない。	○	外部評価の結果をふまえ、早めに、改善への具体的な取り組み方を全職員で話し合い、改善計画を立てることが望ましい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的開催され、市の担当者や地域の保健師、家族代表、併設病院の看護師などの参加がある。事業所の現状や課題を報告し、福祉の情報や地域交流についての助言や意見などを、サービス向上に活かす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近くにあり、担当職員とも顔見知りの関係ができています。事業所内での介護保険関係書類の不明な点や、その他行政関係の疑問などが生じたときには、管理者が直接市役所に行き話し合いを行うなど、問題解決を図るための連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、外出や定期的に外泊する利用者もいるので、その都度利用者の日常の報告を行っている。毎月の請求書送付時にも、利用者の暮らしぶりや事業所についてのお知らせを同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族と意見や要望を話しやすい関係ができており、面会時に気軽に相談が行えるようにしている。年2回の家族会には、家族だけで話し合う時間を設けるなど、意見や要望を引き出す工夫をしている。出された意見について全職員で話し合いを行い、運営やケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、新入職員の情報は家族には定期的なお知らせの際に伝えるようにしている。利用者にはその都度紹介をしている。系列の事業所間で異動があっても、日頃から顔なじみの関係ができており、利用者への影響を少なくするよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には勤務扱いで参加し、職員間での内容の共有もできている。事業所内の研修は、代表者を中心に積極的に行われており、職員個々に対して課題を与え、職員の資質向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県のグループホーム協議会に参加しており、会議や研修会に参加し、事業所の運営に役立てるようにしている。積極的に他事業所との交流を行い、意見交換を行っている。今後、事例を持ち寄っての学習会の開催や、他グループホームからの実習受け入れを予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学などの時にもお茶を飲みに来るように気軽に事業所に足を運んでもらえるような事業所の雰囲気作りを目指している。また、入居の際には、主任とスタッフが自宅や入院先などを訪問し、本人、家族と面会してコミュニケーションを保ち、スムーズな入居に繋がれるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から新入職員に、緊張を和らげるために先輩としての言葉かけがあったり、料理や草木の鉢植えなどについてのアドバイスが行われたりしている。職員も入居者の笑顔が得られるよう、コミュニケーションを大切にしており、共に生活をして支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、言葉や態度などから、本人の気持ちをくみ取るよう心がけている。発語が不自由な方の場合でも、家族と連絡を取り合い、表情や動きから本人の意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で同じ介護観を持つため、月に一度、全職員でのケアカンファレンスとケアプランについての勉強会を行っている。また、利用者、家族の意見も機会があるごとに取り上げ、話し合いを行い、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度、定期的な見直しを行っているが、状況変化のあった時には、その都度見直しを行っている。毎月行われるケアカンファレンスにおいても現状に即しているかのモニタリングを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	独居の方の帰宅時の送迎や、家族の状況に応じて通院、受診の送迎など、柔軟な支援をしている。今年度より認知症対応型通所介護を始め、近隣の利用者との顔なじみの関係が出来始めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医には、継続して受診が出来るようにしている。通院は、基本的には家族が付き添いをするが、都合がつかない場合などは柔軟にスタッフが付き添いをし、併設医院の協力により送迎支援も行っている。急病や体調不良の時には、併設医院の医師や看護師が対応し、適切な医療を受けることが出来るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアに関しては、入居時、家族と、代表者、スタッフで話し合いを行い、全員で方針を共有している。重度化の場合もこまめに話し合いを行うようにしており、また今後、それらの内容を文面で残し、同意書を作る予定としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護を理念に掲げ、利用者の自尊心を傷つけないように声かけなどの配慮をしている。また、プライバシーや個人情報の保護に関しての職員研修を行い、管理者は日常のケアを点検し職員と話し合いを行い資質の向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間不眠の利用者の場合は起床時間を遅くしたり、昼寝の時間をとったりと、一人ひとりの体調や気分にあわせて過ごせるように配慮している。敷地内や併設医院の出入りは自由にでき、医院の職員も見守りをするなどの協力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設医院の献立に沿った食材が届けられ、利用者の希望をとり入れながら食材を工夫して調理しているが、職員は別の場所で食事をとったり、後片付けをしており、利用者と一緒に食事を楽しむ雰囲気づくりが十分ではない。	○	職員は、食事の介助や見守りをするだけでなく、食事時間の共有をはかり、皆で食事を楽しめる「場」を持つことが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後が基本であるが、週2回は午前の入浴ができる。入浴日や時間は1人ひとりの希望に合わせて、スタッフがマンツーマンで準備から湯上がりまで関わり、ゆっくと楽しんで入浴できるように支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花の水やり、植替え、洗濯物たたみや、食卓の準備、カレンダーめぐりなど利用者ができることを見極め、支援をしている。しかし生活歴の記録が少なく、生活歴を活かした支援につながっていない。	○	一人ひとりの入居前の生活歴の把握と、全職員での共有を行い、それらを活かした支援が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域や事業所の行事、ドライブなど、外出の機会をつくっており、また、1日1回は外気に触れるため、車いすの人も敷地内で日光浴、散歩をしている。利用者の希望に応じて、買い物や銀行などの用事でも外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関などの施錠は行っていない。利用者が玄関を出たら、スタッフや併設医院の職員が見守り、連絡を取り合い、さりげなく付き添うケアをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網や食品の備蓄等は整備されており、事故発生時の初期対応や緊急時の応急手当などは研修を行っているが、利用者を含めた避難訓練などが実施されていない。	○	消防署と協力して避難訓練、消火訓練を行う予定があり、運営推進委員会にも参加の案内をしているので期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設医院の管理栄養士による献立、食材を、利用者の状況に応じてグループホーム内で調理しており、毎日のチェック表を使い、個々の食事の摂取量や水分量の把握を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの入口やリビングに季節の花を飾り、壁面には季節を感じる装飾をしている。台所はオープンになっており、調理中の音や香りを感じながら、会話を楽しめて、居心地の良い雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の収納部分は大きく、利用者の日常の動きに危険が無いように整理されている。家族の写真やプレゼントを持ち込んでいる利用者もいるが、全体的に個性がなく、似たような居室となっている。	○	本人が、安心して居心地よく過ごせる居室にするため、なじみのものや、使い慣れたものを使うなど、一人ひとりの個性に応じた空間作りを、本人や家族と話し合いながら工夫することが望まれる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームさくら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市三重町市場546番地の3
記入者名 (管理者)	阿南 昭子
記入日	平成 20 年 8 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念があるが自分たちで作ろうという意見もあり研修で学んだことを活かし新しい理念を作る用意をしている。	○	皆で話し合い新しい理念を完成させたい。
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時、利用者との関わりの指導時に理念を掘り下げて職員に説明し、具体的に理念にそったケアとは何かを伝え、考えながら取り組むようにしている。		
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族の面会時、利用契約時にご本人が地域の中で今まで住んでいた時と同じように、家族、友人とのつながり続けられるように、気軽にお茶を飲み立ち寄り面会してほしいとお願いしている。散髪など行きつけの理髪店の利用や好みのお店での外食など御家族にお願いしている。見学の方にも説明している。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の周りを住宅、商店に囲まれており職員の出勤時、買い物時に挨拶を交わし顔なじみになり、立ち話をして、気軽に立ち寄ってもらったりしている。病院の敷地内に在り、知人が受診の帰りによって下さる。近隣の商店の方がオムツの配達やご利用者の注文の商品を届けてくださる。		
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	病院の敷地内にあり区費の負担など病院がしている。町内の保育園との交流は開設以来続いており、藤華医療技術専門学校がボランティアに来ている。近くの老人保健施設の夏祭りに参加しお神楽、盆踊りを見たり地域の人たちとの交流をしている。	○	地域交流が盛んな施設との交流などで学ばせてもらい交流を広げたい。地域の老人会の方に見学に来ていただくことから始めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、契約書を読みながら内容の説明や利用料金、医療連携体制、ケアの取り組みなど説明し、家族の希望、不安など尋ね納得がいただけるよう説明している。不明な点はいつでも尋ねてくださいと伝えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>食べたい物、受診や買い物、行事の参加など随時利用者に尋ねたりして意見を聞くようにしている。言葉で表せない利用者は、表情や態度からおもいを察し日々のケアに活かす様に心がけている。各職員が利用者からの意見、不満を聞いた場合は職員全員で検討し、対応するようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に、行事の写真を見て頂いたり、健康状態、近況を伝え、月ごとの利用料の請求書の送付時、家族あてに手紙を同封し、暮らしぶりや月ごとに行った行事の様子、交流会、ボランティアの来居、御家族の行事への参加の呼びかけ、職員の移動などを報告するようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>水分を取るとむせや誤嚥しやすい利用者の家族から誤嚥防止のために使用しているトロミーナの料金が掛かり過ぎるとの意見があり、職員で対策を話し合い、水分補給のお茶、味噌汁などに片栗粉を使用するようにして家族の負担を軽減するようにしている。面会時に家族とお話したり、家族会でも参加者一人一人から意見を聞いている。</p>	<p>○ 苦情のみでなく、職員の対応の仕方、喜んでいただけたことを記入できるアンケートを検討している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、ホーム長出席の定例会を行い、事業所の運営・職員採用・利用者の受け入れ・業務等のことでホーム長より説明があり、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者はミーティングなどで職員の意見を聞き、業務の変更、利用者の対応など職員の意見を取り入れている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事、外出の予定日は勤務表作成時に職員の出勤人数を増やし、職員の急病時や利用者の状態に応じ、同じ法人の職員やパート職員にシフトに入ってもらっている。夜勤者は利用者や馴染みの関係が出来ており、利用者の変化に対応できるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、御家族と信頼関係を築くには馴染みの職員が対応することの重要性は常に感じている。離職、転属の場合は利用者、家族に説明、挨拶を行い、お便り等でもお知らせし、利用者のダメージを防ぐよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会に参加し、研修会の報告を定例会で行い、研修内容を出来るだけ共有するようにしている。職員に課題を出し定例会で報告してもらっている。ケアマネージャー等の資格試験に備えて各種援助、勉強会を法人内で行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前からグループホームくたみのもりと管理者同士の交流がありおたがい訪問し、交流の機会を考えていたが今回交流会を実施した。くたみのもりの職員の訪問を受け、施設内の案内、お互いの施設での業務、介護、等で意見交換を行い有意義な時間が持てたが、今後はテーマを決め事例を持ち寄り勉強会をすることなど話し合った。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を用意し休憩時間を確保したり、定例会などで話あい意見を聞くようにしている。勤務表作成の前に、休みの希望を聞き希望に沿うようにしている。夜勤、休みの均等性を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の健康診断を実施しホーム長が医師で職員の健康への相談も受ける。資格取得に対する支援を行い、勉強会等にて向上心に対する配慮を行っている。勤務表を法人に報告し勤務交代などその都度報告している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用が決まればホームに見学に来てもらったり、職員が面接に行き顔見知りになっていただき、ご本人の生活の様子、希望などを聞きホーム利用後も自宅にいた時と同じように暮らしていただけるには、どうすればいいか、考えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話の時間をかけて聞くことで、家族の困っていること、不安に思っていることを把握し、事業所が行っているサービスの内容や現在利用されている方の暮らしぶり等も伝えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人や御家族の思い、状況等を確認し、事業所での対応が困難な時は、他のサービス機関と連携をとり改善に向けた支援の提案を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の施設見学、家庭訪問を通じて信頼関係を築く様にしている。利用を始めるときは、他の利用者に紹介し、馴染めるように常に見守り、声がけし御家族にも頻回な面会や知人の訪問をお願いしている。ホームにいても面会、外出、外泊の出来ることを説明している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員がひとつの家族のように利用者の喜び、不安、思いを共感し理解するよう努力している。利用者から人生の先輩として教えてもらったり、夜勤業務の時などいたわりの言葉を掛けられることがある。休日や研修等で休みが続いた出勤の朝に病気をしたのでないかと、気遣ってくださることがある。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時ホームでの生活の様子をお伝えしたり、手紙、電話を利用し季節ごとの衣類の交換、受診の依頼、行事等への参加、ご本人の希望などお伝えし、ご本人を支えるために協力をお願いしている。長いこと会っていない息子さんに会いたいとの要望に御家族が応じて下さり、息子さんと会えて安心したのか、食事量も増えている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	サービス開始時、家族の面会を一番ご本人が喜ばれることをお伝えし、面会時間は何時になってもいいからとお願いしている。可能な限り外泊、外出をすすめ、機会あるごとに本人の様子をお知らせするようにしている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人などの面会を勧めている。行きつけの美容院、理容院に家族付き添いで行ったり、行きつけの銀行、商店に職員と出かけたり、家族のいないご利用者が市役所に書類の提出、届け出などに出かけるとき付き添い、助言等している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係を日常生活の中で常に観察するようにし、関わり合いがうまく出来るよう、支援している。食事のテーブルの位置を仲良しの人が隣同士に座れるようにしている。会話の話題などご利用者の活躍していた頃のお話を聞き、ご利用者がほかの方のことを知り、お互いの理解を深めることができるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退所後他の病院、事業所に移られた方は面会に伺うなどしている。退所後病院で亡くなられたかたの葬儀、法要にお参りし御家族にご挨拶を行い本人、ご家族との関係が続くようにしている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者とかかわりの中で機会を見て会話し、日々の暮らしの中での言葉、態度などからご本人の思いを汲み取るように心がけている。家族からご本人の情報を集め、その方の目線に沿って理解するように努めている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>サービス利用開始時に、ご家族に家族介護状況表をお渡しし、生活歴や馴染みの暮らし方など記入していただき、不明な点や、ホームでの暮らしに必要なことは、随時家族に尋ねている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人一人の生活のリズム(バイタル、排泄時間、排便の有無、食事量、睡眠時間)を記録し職員全員が把握し、毎日の暮らしを支援し、ご本人の出来ること、出来ないことを確認しながら、出来ることに注目し日常の生活でいかせるよう職員で取り組むようにしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人には日頃の関わりの中で、思いや、希望を聞き、御家族にケアにたいする意見を聞き、ミーティング定例会などでの職員の意見を反映し計画を作成している。8月から2施設合同でホーム長、土生医院ナース出席の元、ケアカンファレンスを開催しケアプランの勉強に取り組んでいる。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、期間以前でも身体状況の変化があればケアカンファレンスでプランの見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作り、毎日食事量、水分量、排泄、バイタルを記録し朝、昼の申し送り時に職員間で情報を共有し、一日のケアに活かすようにし、暮らしの様子、発言、ケアの工夫、ケアの中での発見など記録している。介護計画の見直しにも活かしている。記録の大切さをミーティングで伝えている。	○	介護記録の理想的な記録の仕方を学び、介護記録を充実させたい。
えんきょう			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当該医療法人主治医による月1回の定期受診を行っている。独居の利用者の帰省の送迎、家族の状況におおじて、通院、受診の支援をしている。平成20年4月から認知症対応型通所介護を始め近隣の方にご利用いただいている。		
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、民生委員、消防署と連携を取り協力を依頼している。ご利用者の自宅の草取りを地域の方をお願いしている。独居の方が自宅に一時帰宅した時、近隣の住民に、職員が挨拶をして留守になることを告げお願いしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理容サービスや訪問歯科のサービスを受け、ている。市から居宅介護用品費の受給認定を受け給付券でオムツの購入をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	サービス利用の問い合わせ、相談などの情報交換を行っている。運営推進委員会等を通じ情報交換、協力体制を築いている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設のホームであるが、利用契約時に御家族、本人の希望するかかりつけ医に続けて受診出来ることを説明し、受診の支援を行っている。家族に了解を取り、当医療法人で定期受診を行い、急変時や体調不良時は訪問診療等で随時対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルケア同意書を作成しご家族の意志の確認を行いたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定例会、ミーティングで、勉強しプライバシーの保護の徹底に努めている。日々のかかわり方を管理者は常に点検し、職員と考えるようにしている。個人記録等は事務室に保管し、施錠している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で都度声がけし、意志の確認を行うようにし、意思表示の困難な方は、表情で読み取ったり、難聴のある方は筆談で説明し、意志の確認、表示をしてもらい、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、体調、面会者の有無、買い物予定、受診等、希望を確認しながら出来るだけ個別性のある支援を行うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服や靴の購入時、ご本人に選んでもらい、入浴時の着替えなども本人に尋ね用意するようにしている。自己決定がしにくい利用者には職員が日頃の好みを考えながら支援している。理容院は馴染みのお店を利用したり、顔なじみの美容院に行きパーマをかけるなど支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の楽しみであるため、一人ひとりの好みを把握し、普通食、刻み食、ミキサー食、と作り、残さず食べてもらえる工夫している。テーブル拭き、配膳、下膳等できる事を手伝ってもらっている。行事食はご利用者の意見を聞きメニューを決めている。食事介助が必要な方がいるため、職員は交代で食事を取る。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食後、養命酒を飲まれる方に、適量を用意し飲んでいただいたり、お正月、花見、敬老会などの行事には、一人ひとりの方の希望を聞き飲み物を用意している。誕生会にはケーキと飲み物でお祝いし、おやつは季節に合わせ、やせうま、酒饅頭、ぜんざいなど手作りのものを用意し楽しんでもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、家族とお話ができるよう電話の取次ぎの支援をしたり、市役所、保険会社などからの手紙で分からない事などは本人の希望で説明したり、連絡を取ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご利用開始時、御家族だけでなくご本人と馴染みのある方にいつでも尋ねてくださいと伝えるようにしている。訪問時は居室に椅子やお茶をお出し、ゆっくり過ごしていただけるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、研修等で身体拘束の勉強をし、日常のケアの中で身体拘束が行われていないかミーティング、申し送りでケアを振り返り職員と考えている。夜間ベットの必要な方は家族に説明し、了解をいただき使用し、必要がなくなれば早急に使用をやめている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をつけていない。日中は玄関に鍵は掛けていない。玄関の外に出るときは職員に声を掛けてくださいとお願いしている。ホールにいる職員が常にご利用者のうごきを把握するようにし、その場を離れるときは他の職員に声がけするように見守りしている。外に出そうな人には付き添うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者と同じ空間で食事の支度、掃除、記録等の作業を行いながら見守りをしている。移動時各居室の様子を確認している。夜間帯は頻回な巡視、見守りをおこなう。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ポットは日中いつでも利用できる場所に置き食事の前に、利用者の方がお茶を注ぎ配ってくださる。そのたび無理をしないよう声掛け、見守りを行っている。はさみ、包丁など使用時は職員が必ず付き添い見守りしている。薬も、自分で飲まれる方は見守りし、確認する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの記録を行い、定例会で検討し、状況の把握、原因、対策を共有し、職員全員で疑似体験として介護に活用するようにしている。事故発生時には、家族への説明と報告をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・運営母体が医療法人なので高齢者に必要な医療が密着しています。
- ・町の中心部にあり、市役所、銀行、スーパーなどが近く、三重町駅から徒歩10分の所にあり交通の便が良い。
- ・近隣の方が入居されているため地域の方がお見舞いに来ていただける環境にある。
- ・オムツ使用の方もリハビリを兼ねて日中はトイレでの排泄をし、オムツの使用枚数の節約を行っている。
- ・近隣の保育園児が交流に来てくださり、利用者の方も楽しみにされている。
- ・町の中心にあるため、お祭り・催し物が敷地内から見られ、利用者の方にも喜ばれている。